

浸水状況把握のリアルタイム化に関する研究

研究の背景・必要性

- 平成27年9月の関東・東北豪雨では、茨城県常総市において甚大な洪水災害が発生した。
- 将来、首都圏大規模水害が想定されており、さらなる被害の拡大が予想されている。
- 関東・東北豪雨では、浸水範囲と面積の計測に概ね10時間、湛水量の推定にはさらに5時間を要した。また、昼間の航空写真等しか得られず、夜間は計測できない状況だった。

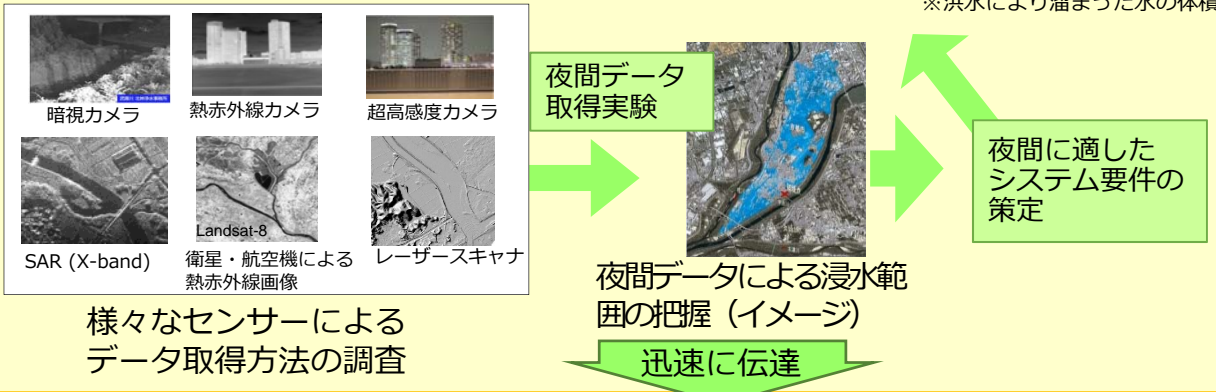
住民の避難誘導や救出活動、ポンプ車の配置等の排水計画の立案には、**浸水状況の迅速な把握と昼夜問わないデータ取得が重要。**

本研究

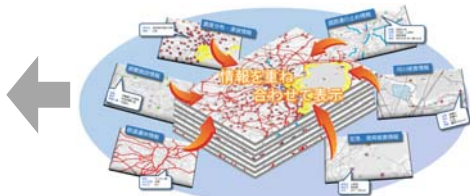
迅速な浸水状況の把握のための実用システムの開発



昼夜問わないデータ取得に向けた足がかり

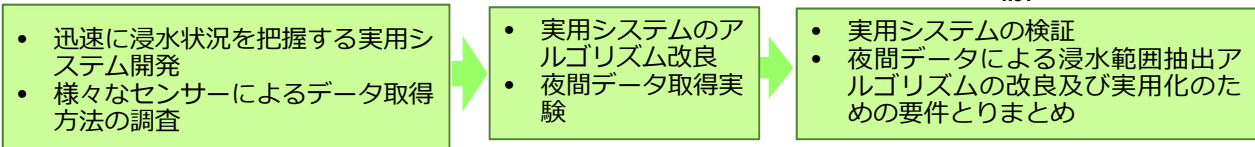


発災時の災害対策に活用



国土交通省内でデータ共有 (DIMAPS)

年度計画



研究効果

